

# 令和7年度 高校教育とPTA専門委員会研修会

実施期日：令和7年11月10日（月）

会 場：埼玉会館 小ホール

主 催：埼玉県高等学校PTA連合会

後 援：埼玉県教育委員会

後 援：(一財)埼玉県高等学校安全振興会

# 目 次

|    |                |
|----|----------------|
| 次第 | ・・・・・・・・ 2 ページ |
|----|----------------|

## 発表校資料

|                       |                  |
|-----------------------|------------------|
| (1) 埼玉県立越谷南高等学校 P T A | ・・・・・・・・ 3 ページ   |
| (2) 埼玉県立坂戸高等学校 P T A  | ・・・・・・・・ 7 ページ   |
| (3) 埼玉県立上尾高等学校 P T A  | ・・・・・・・・ 1 1 ページ |
| (4) 埼玉県立熊谷高等学校 P T A  | ・・・・・・・・ 1 5 ページ |

# 令和7年度埼玉県高等学校PTA連合会 高校教育とPTA専門委員会研修会 次 第

日時 令和7年11月10日(月)

場所 埼玉会館 小ホール

受付 12:30～13:00

【司会・進行】 埼玉県立越谷東高等学校PTA会長 長尾 雅彦

1 開会のことば(13:00)

埼玉県立上尾高等学校PTA会長 小野里 瑞枝

2 講演会(13:05～14:20)

(1) 講師紹介 埼玉県立狭山経済高等学校校長 川窪 慶彦

(2) 講演 風景写真家(日本風景写真家協会会員) 佐藤 尚 様  
講師 演題 『写真で広がる視点、出会いで変わる自分』

(3) 質疑応答

(4) お礼のことば 埼玉県立狭山経済高等学校校長 川窪 慶彦

休憩(14:20～14:30)

3 開会行事(14:30～14:40)

(1) 委員長あいさつ 埼玉県立狭山経済高等学校 PTA会長代理 高篠 真紀子

(2) 講評者紹介 (司 会)

(3) 発表者・校長の紹介 (司 会)

4 研究協議(14:40～16:00)

(1) 実践発表(各校20分)

東部支部 埼玉県立越谷南高等学校PTA会長 藤田 千鶴子  
【持続可能なPTA活動を目指して】

西部支部 埼玉県立坂戸高等学校PTA会長 近藤 涼  
【高校教育におけるPTAの役割再考と未来志向の活動へ向けて】

南部支部 埼玉県立上尾高等学校PTA会長 小野里 瑞枝  
【上尾高校におけるPTA活動】

北部支部 埼玉県立熊谷高等学校PTA会長 浅見 禄郎  
【高校教育とPTA】

(2) 質疑応答

(3) 講 評 (16:05)

埼玉県教育局県立学校部保健体育課 主任指導主事 薬師寺 将二 様

5 連絡 埼玉県高等学校PTA連合会より 事務局 川田 清隆

6 閉会のことば(16:30)

埼玉県立上尾高等学校PTA会長 小野里 瑞枝



# 「持続可能なPTA活動を目指して」



埼玉県立越谷南高等学校PTA会長 藤田 千鶴子

## 1 本校の概要

本校は、昭和49年4月に越谷市内3校目の全日制普通科の共学校として開校し、本年度で創立52年目を迎える県立高等学校である。開校20周年を迎えた平成5年4月に新たに外国語科を併設し、県東部地域有数の国際理解教育推進校として外国語科教育に注力している。学校規模は、1学年9クラス（うち1クラスが外国語科）で、全校生徒数は1056名の大規模校で、昨年度末に卒業した生徒を加え、これまで計1万5千人を超える卒業生を輩出し、様々な分野で活躍している。



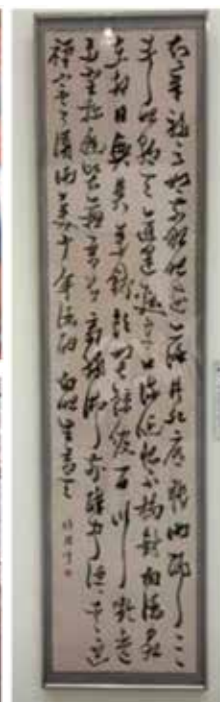
開校当初は、学校周辺に建築物は皆無で畑で囲まれた陸の孤島のような立地であったが、平成20年に周辺地域の再開発とともにJR越谷レイクタウン駅が開業し、駅から徒歩5分圏内という理想的な立地となった。



更には、国内最大規模のイオンレイクタウンが開業したことによって急激に開発が進み、マンションや新興住宅が立ち並ぶなど周辺環境は一気に近代化が図られたことで、子育て世代の世帯が急増する県内でも類を見ない人口増加地域となった。これに伴い、生徒の通学方法や通学範囲も大きく変化し、電車利用者が全体の6割を超え、武蔵野線沿線を中心に県内広範囲から通学するようになった。

本校は「知・徳・体、文武両道」を校訓に掲げ、開校当初から勉学面にも部活動面にも主体的に取り組み、高いレベルでの自己実現を目指させる教育活動に取り組んできた。そうした教育方針のもと、バドミントン部の全国制覇を筆頭に、運動部・文化部の別なく多くの部活動で輝かしい成果を上げるとともに、在校生徒のほとんどが3年間部活動に情熱を注ぎながら自己肯定感を高め、勉学との両立に励みながら自己実現を果たしている。

過去3年間の全国レベルの大会では、全国高等学校総合体育大会（インターハイ）に陸上部が、全国高等学校総合文化祭に書道部と写真部が、NHK杯全国高等学校放送コンテストに放送部が出演し、関東レベルの大会では、男女ハンドボール部、男子バレーボール部、男子硬式テニス部、吹奏楽部、チアダンス部が出演している。更に、美術部は、令和6年度県展の絵画部門で高校生作品の最優秀賞である高校生奨励賞を受賞し、県庁内の教育委員会室に1年間展示された。



また、本校の最大の特徴といえば、全校生徒の93%が3年間部活動に取り組んでいるということであり、授業を第一に掲げつつ、自らの意志によって可処分時間である隙間時間等を学習活動に充てるなど、「自走」による時間の有効活用を実践しながら、放課後の時間はほぼすべての生徒が教室以外の場に居場所を持ち、それぞれの趣向に合わせて部活動に情熱を注ぐ生徒たちの姿があることが挙げられる。

## 2 本校の現状と課題

本校の目指す学校像は、『文武両道』をととして『知・徳・体』の調和を実現し、目標を高く持って社会に貢献する人材を育てる学校。」であり、教育活動の柱となるのは、より高いレベルで「文武両道」を実現することに挑戦させている。そして、目標の実現までのプロセスで経験する様々な学びによって「知・徳・体」の調和のとれた人格を育むことでもある。

また、そうした目指す学校像を実現するための基本方針として、地域や保護者から真に信頼され、求められる魅力ある学校づくりに取り組んでいる。

本校に入学する生徒のほとんどは、入学前から本校が「文武両道」を強く推進する校風であることを十分理解した上で入学してくる。そのため、運動部か文化部かという違いはあるものの、部活動そのものに対する肯定感が高く、家庭の事情や外部の活動組織に加入している者など、ごく一部の生徒を除いては部活動そのものに対して前向きな姿勢を有している。それ故、入学時の部活動加入率は、ほぼ100%に近く、そのうち大多数の生徒が3年間継続して活動に取り組む状況となっている。



また、それぞれの部活動では、活動実績のレベルに差はあるものの、多くの生徒たちが日々地道な鍛錬を積み重ねながら、より高いレベルでの目標の実現を目指して情熱を持って取り組んでおり、生徒たちにとって自分の周囲にいる仲間のほとんどが部活動に情熱を注いでいることによって、学校生活の中で違和感なく部活動に取り組むことができている。本校では、こうして切磋琢磨しながら高みを目指す仲間たちを「南の風」と呼び、お互いに刺激し合いながら取り組んでいるのが最大の強みとなっている。

一方で、ほとんどの生徒が3年間活動を続けるため、活動の途中で挫折を味わったり、人間関係に悩んだりした場合には、教室にも部活動にも居場所を見出すことが難しいため、どの部活動においても如何に居心地の良い環境を維持できるのかが大きな課題となっている。このため、生徒たちは常日頃から相互の人間関係に気を配り、協調・協力しながら集団を維持しようとする意識が強いため、力強くリーダーシップを発揮できる生徒が少ないことも課題となっている。

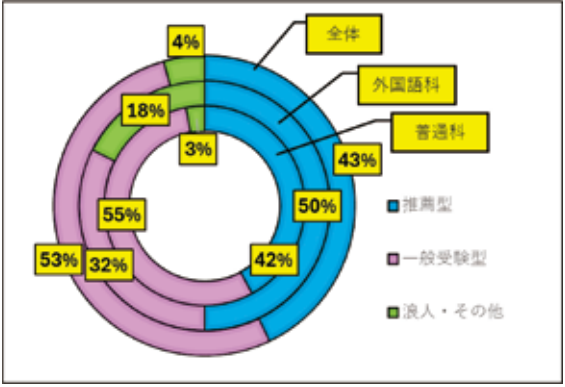
「文武両道」の「文」の分野では、現役進学率95.3%、4年制大学への進学は88.2%と進学校としての実績は十分に確保できており、生徒や保護者の満足度は決して低くない。特に、高校3年間を真面目に努力することで、指定校をはじめとした学校推薦型の受験方式で進学を目指す生徒が全体の約40%を占める。中でも成績の高い生徒ほど学校推薦型の受験方式で合格可能性の高い大学を選ぶ傾向が強く、より高いレベルの進学先への合格を目指して最後まで学習を積み重ねて一般受験で勝負する生徒が少ないことが課題となっている。

| 学科   | 大学    | 短大   | 専修・各種 | 就職・公務員 | 未定・その他 |
|------|-------|------|-------|--------|--------|
| 普通科  | 88.9% | 2.0% | 5.9%  | 0.3%   | 3.0%   |
| 外国語科 | 82.4% | 0.0% | 0.0%  | 0.0%   | 17.6%  |
| 全体   | 88.2% | 1.8% | 5.3%  | 0.3%   | 4.4%   |

堅実な高校生活を送り、成績の高い生徒が一般受験を目指すことができれば、もうワンランク上位の

進学実績が残せる可能性がありながらも、生徒・保護者ともに安定志向は高く、学校推薦型を希望する生徒たちが多い。

こうした実情は盛んな部活動とも密接な関係があり、時間を有効活用しながら文武両道に励みながらも、多くの生徒は生活の軸足を部活動に傾けており、3年間部活動に情熱を注いだからこそ、引退後のわずかな期間で一般受験を目指してリスクを抱えるより、3年間積み重ねた実績と信頼を有効に活用して進路実現に活かすという思考から来るものでもある。



進路実績の観点からは、部活動引退後に思考を切り替え、部活動に情熱を注いだエネルギーを一般受験に向けて学習活動に取り組むことによって、更に高いレベルの自己実現を果たせる可能性がありながらも、リスクの少ない確実な自己実現を目指す傾向が強いことから中堅上位の大学への進学がボリュームゾーンとなっており、今後は部活動と同じように高い目標に向かって挑戦し、一歩先のキャリアを手にすることを目指す生徒を育成することが学校としての課題となっている。

### 3 本校のPTA組織

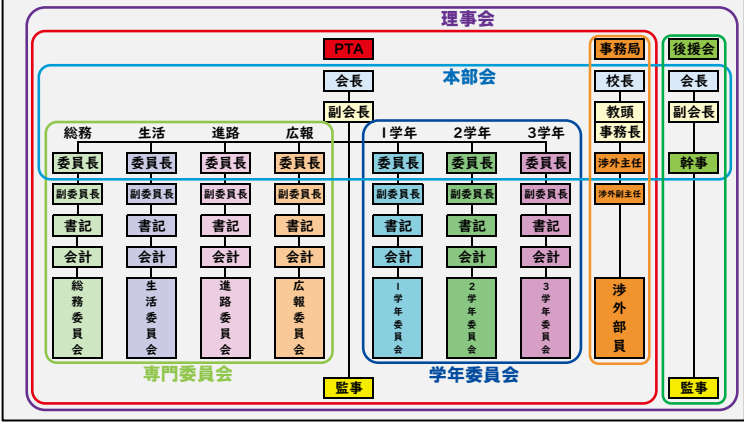
本校のPTAは、通常活動時には後援会組織と連携・協力しながら活動している。PTA組織は全校生徒の保護者と教職員で構成され、保護者の加入率は100%となっている。理事の選出は入学式当日に行われ、各学年36名（クラス4名）が選出され、その中から副会長4名が選出される。その他の理事は総務、生活、進路、広報の4つの専門委員会に振り分けられ、それぞれが独立して委員会ごとの業務に取り組む仕組みとなっている。また、各学年に所属するすべての理事で構成されており、学年独自の取組や情報共有の場となっている。

本部会は会長、副会長、学年委員長、専門委員長の計19名に後援会の会長、副会長、幹事及び事務局である教職員を加えた人員で構成され、理事会や総会で審議する内容などについて主体的に企画立案を行うなど、PTA組織の中核として活動している。

| 組 織 |         | 役 職 | 人 数 |
|-----|---------|-----|-----|
| PTA | 本 部     | 会 長 | 1名  |
|     |         | 副会長 | 10名 |
|     |         | 委員長 | 7名  |
|     |         | 事務局 | 4名  |
|     | 専門委員会   | 総 務 | 24名 |
|     |         | 生 活 | 24名 |
|     |         | 進 路 | 24名 |
|     |         | 広 報 | 24名 |
|     | 学年委員会   | 1学年 | 36名 |
|     |         | 2学年 | 35名 |
|     |         | 3学年 | 36名 |
|     | 事務局（学校） | 校 長 | 1名  |
|     |         | 教 頭 | 2名  |
|     |         | 事務長 | 1名  |
|     |         | 渉外部 | 6名  |
| 後援会 |         | 会 長 | 1名  |
|     |         | 副会長 | 2名  |
|     |         | 幹 事 | 2名  |
| 監 事 | PTA     |     | 2名  |
|     |         | 後援会 | 2名  |

専門委員会は理事24名（各学年8名）で構成され、主な活動内容は以下のとおりとなっている。

- 1 総務委員会
  - ・文化祭でのPTA企画の立案・運営
- 2 生活委員会
  - ・学校行事における保護者受付対応
- 3 進路委員会
  - ・PTA大学バス見学会の企画・運営
- 4 広報委員会
  - ・学校行事等の取材活動
  - ・PTA広報誌「南の風」の発行



各学年の理事の中には、仕事や家庭の事情等によってほとんど活動に参加することができない保護者が一定数いることから、今後、学年選出理事の総数の削減について本部会などで議論し、組織のスリム化を目指すこととなっている。

#### 4 教育活動とPTAの連携に関する具体的な活動

##### (1) 学校行事における保護者対応

本校では年間を通じて多数の学校行事に取り組んでいるが、このうち体育祭及び文化祭においては生徒の活躍する姿を御覧いただきたいとの趣旨から、積極的に保護者の観覧を推進している。保護者の来校に当たり、資料の配布や当日の案内、来校者数の確認などの観点から、教職員との連携のもと、生活委員会が保護者受付を担い、来校した保護者が円滑に観覧できるよう配慮している。

##### (2) 学校行事における生徒支援活動

PTAが生徒の活動に対して直接支援を行う学校行事は文化祭と長距離大会となっている。文化祭では、PTA本部によるスクールキャラクター柄の煎餅販売を、総務委員会ではPTA企画として駄菓子の販売などを行い、純利益を生徒会に還元する活動に取り組んでいる。長距離大会では学年委員会を中心に、コース上に3か所設置された給水所にて生徒たちに対する給水支援に取り組むとともに、完走を目指す生徒たちにあたたかい声援をおくっている。

##### (3) 保護者自身の研修

生徒たちの学校生活を力強く支え、生徒のより良い未来を実現するために、保護者自身の研修活動の場として、進路委員会が中心となってPTA大学バス見学会を企画立案及び運営している。例年理系・文系ごとにバス1台を確保し、午前・午後と2校の大学を訪問することで、保護者目線で学生生活の様子を確認するとともに、入試情報などの収集に取り組んでいる。

また、PTAの組織活動全体に係る研修の場として、関東大会や全国大会への参加に加え、県高P連が主催する研修会へも本部役員を中心とした代表者が積極的に参加し、本部会や理事会で報告をするなど、本校PTA組織の活動等のブラッシュアップに努めている。

##### (4) PTA広報誌「南の風」の発行

広報委員会が中心となって学校行事などの取材や部活動の大会結果などの情報収集、教職員からのメッセージの収集などを行い、年2回（12月と3月）PTA広報誌「南の風」を発行している。12月号は主に学校行事の特集、3月号は卒業記念号となっている。

##### (5) 各種会議の運営

本部会や理事会は基本的にPTA・後援会会長を中心に本部役員がその都度役割を分担して運営されている。各会議は学校からの要望や依頼への対応の他、各組織内での懸案事項や各種行事への対応などについて積極的に議論されるとともに、可能な限り短時間で終了し、時間的な負担を軽減できるよう配慮している。

専門委員会及び学年委員会は、基本的に理事会の開催に合わせて同日に実施され、各委員長を中心に懸案事項について議論するとともに情報の共有を図り、円滑なPTA活動につなげている。

#### 5 おわりに

近年、義務教育諸学校を中心に、PTA非加入問題やPTA不要論など、PTA活動の存続そのものに対する逆風が強くなっている現状がある。そうした中で、本校は現在まで加入率100%を維持しているが、今後はそうした思想を持った保護者にどのように対応していくかが大きな課題となっている。

一方で、本校PTAは、会長を中心に「無理のない範囲で対応できる人が対応する」ことを大切にしており、多くの保護者の皆さまに積極的にPTA活動に参画していただいている。こうして学校とPTA組織が協力しながら生徒たちの支援に取り組んでいるからこそ、今後は、より多くの保護者の皆さまが参画しやすい持続可能なPTA組織づくりに取り組んでいきたい。

## ～ 坂戸高校 高校教育におけるPTAの役割と未来志向の活動へ向けて ～

埼玉県立坂戸高等学校PTA会長 近藤 涼

### 1. 坂戸高校の概要

本校は昭和 46 年の創立以来 55 年目を迎え、県西部・入間地域における全日制共学の中核的進学校として、地域の期待に応えて教育成果をあげてきました。

少子化が急速に進行する中、本校は各学年に普通科8クラス、外国語科1クラスの、定員360人を維持する大規模校です。

予測困難で変化のスピードが加速する現代。本校では特色ある教育活動を通じて、生徒が未来をしなやかに生き抜く底力となる「自立力」を育成します。



### 2. 坂戸高校の特色

#### 1) 土曜授業なしで年間 34 単位「自学の坂戸」

本校最大の特色は、土曜授業なし、45分×7コマ授業×週5日で年間34単位を履修する教育課程です。年間34単位ということは、標準的な50分×6コマ授業で年間30単位の学校と比べて、3年間で12単位多く履修するということです。これは大きな強みです。標準的な科目に加えて、より深く高精度な科目を選択し、大学進学などに向けた実践的な学習を授業時間内に行うことができます。

充実した教育課程をベースに、本校は「自学の文化」を標榜し、生徒に奨励しています。朝も放課後も自習室は自学にいそしむ生徒でいっぱいです。大学受験において、さらに、その先の未来を自立して生き抜くことにおいて、本当に必要なのは自ら学ぶ力です。

#### 2) 外国語科を併設「国際理解教育の坂戸」

本校は普通科と外国語科を併設しており、外国語科では英語の科目を3年間で25または27単位履修します。英語漬けで集中特訓する English Seminar、視野をグローバルに広げる Global Seminar といった学科独自の行事も行いながら、国際感覚豊かな人材を育成します。日常の授業から、英語でのプレゼン、ディスカッション、ディベートなどをさかんに行い、徹底して英語でのコミュニケーション能力を鍛えます。3年生では全員が英語で Graduation Theses(卒業論文)を作成し、発表を行います。

また、2・3学年では第二外国語を2単位ずつ履修します。第二外国語は中国語・スペイン語・ドイツ語・フランス語からの選択です。令和6年度には、大学主催の高校生スペイン語スピーチコンテストで最優秀賞を受賞するなど、目覚ましい成果を上げています。

夏季休業中に実施するオーストラリア研修は、外国語科・普通科相乗りの一大行事です。参加生徒は、ホームステイしながら現地の高校で語学研修と交流を行い、かけがえのない体験と感動を得て帰ってきます。



### 3) 地域課題も、SDGsも、自然科学も「探究の坂戸」

本校は「県立高校学際的な学び推進事業」の指定校で、本格的に、教科横断的かつ探究的な学びを実践しています。探究課題は、「お仕着せ」型ではなく、地域課題あり、SDGsあり、自然科学あり。個々の関心に応じて自ら立てた問いを深掘りする探究に取り組みます。県予算だけでなく民間の助成金を積極的に獲得しながら、地域や大学などから多様な外部講師をお招きし、生徒の探究をバックアップしています。

### 4) ハイレベルな進路実績「進学 of 坂戸」

進路先はおよそ9割が現役での四年制大学進学です。令和6年度卒業生を例にとると、国公立大15名、GMARCH52名現役合格など、ハイレベルな実績を上げています。自ら高い目標を掲げて頑張りぬく生徒を手厚くバックアップしています。

### 5) スポーツ、芸術、科学など多彩な分野で生徒が活躍「文武 of 坂戸」

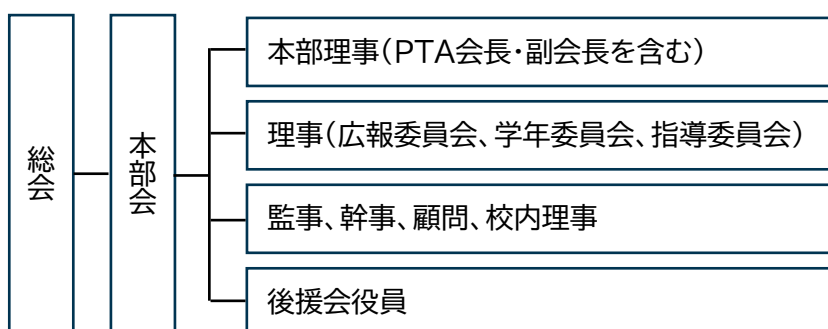
18の運動部と14の文化部があり、活発に活動しています。今年度9月時点で、既に10以上の運動部が県大会以上に勝ち進んでいます。ダンス部は夏の主要な全国大会2つに出場しました。文化部は、「勝敗」とは異なる価値観で高みを目指していますが、ギター部、美術部が全国総文祭(香川)に出場・出品するなど、目覚ましい成果を上げています。科学部は日本学生科学賞や総文祭の全国大会常連です。またダンス部をはじめ、多くの部が地域行事に出演し、喜んでいただいています。「文武」とともに、生徒たちがそれぞれの適性を思い切り伸ばして活躍しています。



ダンス部全国大会出場の様子

## 3. 本校のPTA・後援会組織と概要

本校のPTAは本部理事と各種委員会、監事などによって構成されており、それらの代表によって開催されている本部会が主な意思決定機関です。また、後援会が設置されており、PTAと同メンバーによる運営と意思決定がなされていることから、実質的に同じ組織として機能しています。



令和7年度総会の様子

それぞれの事業や役割と構成人数は下記の通りです。

|       |     |                                  |
|-------|-----|----------------------------------|
| 本部理事  | 22名 | 方針の検討と決定(予算、事業計画、会則改定など)、研修への参加  |
| 広報委員会 | 24名 | 広報誌「さかこう」の発行(年2回)                |
| 学年委員会 | 18名 | 講習会と研修旅行の開催、卒業記念品の贈呈             |
| 指導委員会 | 22名 | 子どもの進学を考える会の開催(年2回)、ロードレース大会サポート |
| 監事    | 9名  | 会計監査                             |
| 後援会役員 | 9名  | 予算の策定や執行、研修への参加                  |

## 4. 本校のPTA・後援会活動

### 1) PTA・後援会の役割の理解と具体的な活動

本校はコロナ禍で活動を見直し、地区制の廃止、役員の人数削減や専門委員会の統合などスリム化を進めました。また昨年度からは、PTAや後援会の課題や果たす役割について、下記のような課題について活発に議論し、活動や組織の在り方について見直しを進めました。そして令和6～7年度にかけてPTA・後援会の役割を整理しつつ新たな活動を進めています。

#### 【令和6年度に議論した課題】

| 課題                | 論点                                                                                                                                     |
|-------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 活動の不明瞭性           | 子どもたちのためという大義はあるが、なぜPTAや後援会が必要なのか説明できていない。また、活動や予算がどのように意思決定され、何にどう貢献しているのか不明確で、一般会員はもとより本部役員ですら理解できていない。一般的にこのような組織に積極的に参画したいとは思われない。 |
| 任意性の未担保           | PTAや後援会は任意団体であるにも関わらず、実質強制参加に近い枠組みがとられている。(意思表示なく加入される、退会ルールが決まっていないなど)                                                                |
| ブラッシュアップや改善しにくい風土 | 活動内容や予算金額について討議がほとんどなされず前年踏襲されている。会則と実態が乖離しており、会則ではなく慣例で活動している側面が強い。おかしい、変だ、変えなきゃと感じたことを見直しにくい風土になっている。                                |
| 公費私費が混在しルール違反の可能性 | 学校教育法、地方財政法、県の寄附採納ルールなどと照らした場合、PTA・後援会会費の使用が適切になされていない可能性が高い。厳しい県財政や学校の事務負担を鑑みる必要はあるが、そもそも正しいルール、あるべき姿を関係者が理解できていないのではないか。             |

#### 【役割の整理と令和6～7年度の活動】

##### ① 保護者と教員が共に教育環境の充実振興を図ること

上記を目的に、会員の意見収集、研修などへの参加、役員会などでの議論を通し、学校や教育に必要な改善や支援を行います。

予算支出への保護者の希望アンケート



##### ② 学校経営に必要な資金支援を行うこと

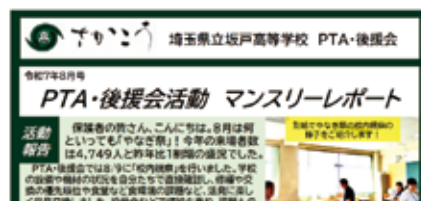
県から学校へ支給される予算では学校経営は困難です。教育や部活動の質の維持向上、快適な学校生活への支援のため、本校の場合県から本校へ支給される年間予算約2,500万円を大きく上回る約3,500万円をPTA・後援会年間の予算として確保しています。



| (参考) 坂戸高校PTA・後援会会計 令和6年度支出実績と概要 |                                                          |
|---------------------------------|----------------------------------------------------------|
| PTA活動への支出                       | 研修参加費など活動費                                               |
| 教育活動への支援                        | コピー用紙など教員の消耗品、授業で使用する教材への補助、進路書籍補助、スクールカウンセラー費用、教員旅費補助など |
| 部活動への支援                         | 部活で使用する備品補助、団体や大会参加費、大会出場時の交通費等補助や激励費など                  |
| 修繕維持への支援                        | 学校設備やグラウンドなどの修繕・清掃費、機材の交換費など                             |
| 冷房費への支援                         | 公的補助のある一般教室以外の教室や食堂の冷房費(リース、電気代など)                       |

##### ③ PTAや後援会の役割や貢献、活動や予算、意思決定のプロセスの明確化と発信すること

活動は会員の支持や理解があって初めて成り立ちます。本校では会員の意思を汲み取るアンケートの実施に加え、役員会の要点録公開、月次の活動・会計報告を実施しています。



■ 8月度 支出明細(金額上位10項目)

| 部 署                                         | 支出額       |
|---------------------------------------------|-----------|
| 津沼職科(リース料・ガス代(8月分))                         | 1,753,218 |
| 読書指導 読書時代、大卒奨励金等代                           | 299,882   |
| ダンス部 紙文楽楽劇団代                                | 273,860   |
| 軽運動 道徳バス代                                   | 195,640   |
| 演劇部 機材等購入代(タブレット、LEDライト、シミュレーター、インパクトドライパー) | 184,585   |
| ダンス部 大会参加費、機材費                              | 156,962   |
| 施設整備 福祉用トイレ代(1室別等)                          | 138,142   |

(参考) マンスリーレポート、月度支出報告

|                      |        |
|----------------------|--------|
| 部 署                  | 支出額    |
| 津沼職科(リース料・ガス代(8月分))  | 74,100 |
| 読書指導 読書時代、大卒奨励金等代    | 61,600 |
| 読書 読書時代で学ぶアメリカの歴史 他代 | 56,231 |

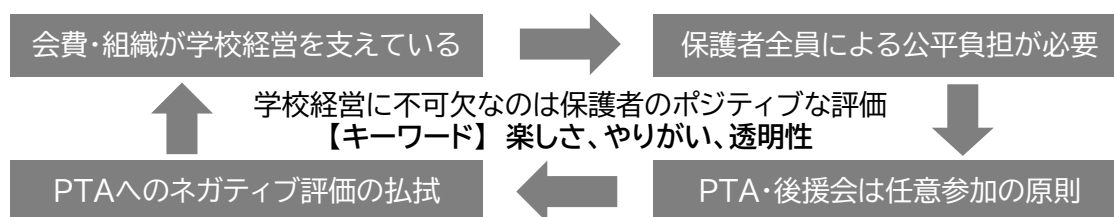
ダンス部 激励費贈呈 演劇部 活動風景

## 2) PTA組織維持への危機感とあるべき姿

昨今のPTAに対するネガティブな印象や、小中学校で消滅しつつある現状に関し、本校では危機意識を持って活動しています。近隣高校のPTAからは、役員の担い手がいない、非会員が増えている、教員との関係がうまくいっていないなどの声も聞こえてきます。こうした中、PTA廃止や任意入会制への保護者の要望も散見されます。

また会費の支出について、公費私費の混在についても課題認識が広がっていると感じています。本校の後援会支出においても、教材やコピー用紙など消耗品購入、学校設備の補修、冷房機器のリースや電気代、修学旅行や部活引率の教員旅費など本来公費負担とすべきものが多く、学校教育法や地方財政法に抵触する可能性を危惧しています。

その一方で、小中学校と異なり、これら多額の資金支援が学校経営を支えている現状を踏まえると、予算確保と運用のためには組織化と全員参画が必要であると判断しています。そのために必要なのは保護者がポジティブに評価し、参加したいと思われる組織になることです。

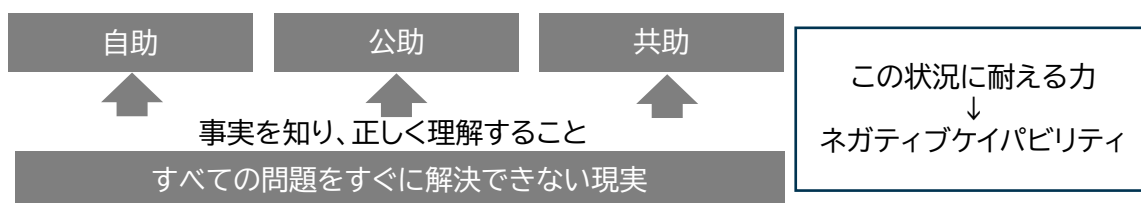


## 3) 新しい時代、未来志向型のPTAとは

この状況について私たちは本校内だけでなく、OB、他校PTA、教育局、県議会議員など様々な立場の方と議論してきましたが解決方法は見出せませんでした。特に公費私費の問題については国政レベルの改革が必要であると認識しています。

一方で限られた時間の中、子どもたちや教育現場のために、何ができるかを考え、行動に移すことが重要であると考えます。いたずらに変化を求めたり、杓子定規で表面的な改革を進めるより、まず事実や本質を知り理解した上で、出来ることから始めていくべきです。

また公的教育は行政の「公助」が基本ですが、すべては充足できません。保護者や教員自身による「自助」、関係者が共に協力する「共助」があって初めて成り立ちます。その上で、子どもたちのために、今取組むべきことへ正面から向き合う未来志向の組織でありたいと思います。



## 5. おわりに

多様で不確実な現代では、答えが出せない状況に耐えながらも前に進む「ネガティブケイパビリティ」が重要であると言われています。そのような時間がかかる改革も、声をあげ、時間をかけることで実現できると思います。それには単位PTAでは限界があり、多くの声をまとめ行政と議論する力が必要です。その意味で高P連の存在はこれからもますます重要になると考えています。

坂戸高校のPTA・後援会は、保護者・教職員が共に考え、行動する素晴らしい風土が誇りです。これからも大人たちが難題に挑戦する姿を子どもたちに見せていたいと思います。

以上



## ～上尾高校における P T A 活動～

埼玉県立上尾高等学校 P T A 会長 小野里 瑞枝

### 1 はじめに

#### (1) 本校の概要

本校は、昭和 33 年 4 月に上尾・桶川・伊奈共立上尾商業高等学校として開校し、昭和 35 年 4 月に県立移管が行われました。さらに昭和 36 年には定時制課程が設置され、本年度で創立 68 年目を迎える伝統校です。全日制は普通科（1 学年 6 クラス）と商業科（1 学年 3 クラス）があり、定時制（普通科）を含めると、県内有数の大規模校となっています。これまで全定あわせて 2 万 6 6 1 4 人の卒業生を輩出し、国家公務員、市役所や消防・警察などの地方公務員、税理士や民間企業など様々な分野で活躍しています。



生徒の半数は近隣地域（上尾市・桶川市・伊奈町・北本市）から通っていますが、高崎線「北上尾駅」駅前という立地に恵まれていることもあり、川越市などの県西部や、越谷市などの県東部など遠方から通う生徒もあり、通学地域は比較的広域となっています。

本校の生徒は、真面目で明るく、気持ちの優しい生徒が多く、「文武不岐（ぶんぶわかたず）」「自主自律（じしゅじりつ）」の校訓のもと、勉強・部活動・学校行事に全力で取り組んでいるため、校内には生徒たちの活気が満ちあふれています。

学習においては、一人 1 台端末を有効に活用し、効果的な授業展開と生徒の学習支援を行っています。文化祭や体育祭、競技会などの学校行事では生徒会や委員会の生徒が中心となり企画や運営を行い、クラスがまとまりとても盛り上がる行事となっています。



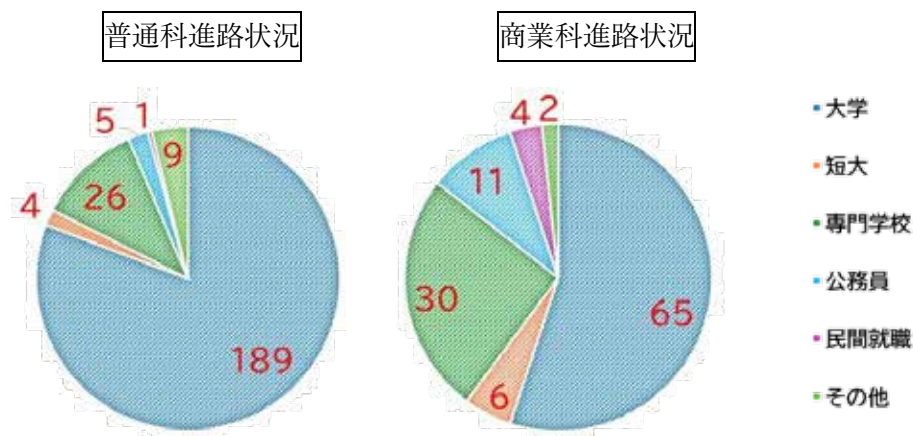
#### (2) 部活動

本校は、部活加入率も高く、9 割を超える生徒が、部活動（運動部 15 団体、文化部 11 団体、同好会 5 団体）もしくは生徒会に所属し、様々な場面で活躍しています。陸上競技部とワンダーフォーゲル部の 2 年連続（R6・7）インターハイ出場をはじめ、簿記同好会、写真部、箏曲部が全国大会に出場し、男子バレー部、男子ソフトテニス部が関東大会に出場を果たしています。他にも多くの部活が県大会に出場するなど、活発に活動しています。



### (3) 進路状況

進路状況はグラフにある通り、普通科は進学者が多く、約80%が大学に進学しており、そのうち約6割が一般入試で進学しています。商業科は普通科と比べると専門学校に進学する生徒や公務員になる生徒の割合が高く、民間就職する生徒もありますが、県内の商業科の中では進学者が多いのが特徴となっています。



主な進路先：埼玉大学、埼玉県立大学、群馬大学、宇都宮大学、慶応義塾大学、明治大学、青山学院大学、中央大学、法政大学、学習院大学、武蔵大学、日本大学、東洋大学、日本体育大学、国家公務員、地方公務員、民間企業など

## 2 本校のPTA活動

### (1) PTAの組織

本校のPTA組織は、全校生徒1,082名（令和7年4月当初）の保護者及び教職員を加えて、1,154名の会員が所属する中、会長、副会長（8名）、常任理事（5名）、幹事（10名）、監事（3名）の27名の本部役員と、各クラス2名の学年理事と渉外部の教職員が中心となり運営を行っています。

4つの専門委員会と、各学年委員会を設け、それぞれが以下のように分担して取り組んでいます。

- 生徒指導委員会：生徒の安全指導に関する事項
- 進路指導委員会：進路指導に関する事項
- 施設保健委員会：学校施設・保健に関する事項
- 広報委員会：学校広報に関する事項
- 学年委員会：学年行事に関する事項



### (2) PTAの年間計画

保護者と教職員が協力して生徒の福祉を推進するとともに本校教育の充実振興に寄与することを目的に、令和7年度は以下の計画で活動を行っています。

## 令和7年度 PTA・後援会 本部活動計画

| 月  | 日   | 会合等名称                         | 内容                                                          |
|----|-----|-------------------------------|-------------------------------------------------------------|
| 4  | 8   | 入学式                           |                                                             |
|    | 11  | 新旧理事会①<br>専門委員会・学年委員会<br>会計監査 | 新役員選出・総会について<br>今年度活動計画<br>今年度事業計画・予算案編成<br>総会について          |
| 5  | 10  | 総会<br><br>保護者対象進路説明会<br>歓送迎会  | 昨年度本部活動報告・決算報告<br>今年度役員選出<br>今年度本部活動計画案・予算案<br>専門・学年委員会活動報告 |
| 6  | 2～6 | 面談週間                          | バザー提供品収集                                                    |
|    | 25  | 理事会②                          | PTA・後援会総会の反省                                                |
| 9  | 5～6 | 文化祭                           | バザー実施（6日）                                                   |
|    | 24  | 理事会③                          |                                                             |
| 10 | 2   | 体育祭                           |                                                             |
|    | 18  | 進路講演会                         |                                                             |
| 11 | 6   | 授業参観・クラス懇談会                   |                                                             |
|    | 19  | 理事会④                          | 文化祭バザー・進路講演会の反省等                                            |
| 1  | 23  | 理事会⑤                          | 今年度の反省等・役員の選考・当面の日程<br>卒業を祝う会について                           |
| 3  | 11  | 役員選考会                         | 新年度の本部役員選出について                                              |
|    | 14  | 卒業式                           | 卒業を祝う会                                                      |
|    | 19  | 入学許可候補者説明会                    | 会則の説明・学年委員等の選出                                              |

### (3) 専門委員会および学年委員会

#### ① 生徒指導委員会

7月18日（金）生徒の下校時間に合わせて「夏の挨拶運動」を実施しました。明るく挨拶をしてくれる生徒が多く、交通ルールを守って下校する様子が見られました。

9月5日（金）6日（土）は文化祭の巡回を行いました。生徒の安全を確認しながら、生徒が楽しく文化祭に取り組む姿が見られました。



#### ② 進路指導委員会

10月18日（土）本校視聴覚室にてPTA進路講演会を実施しました。「AI時代における入試方法の変化と大学入試のしくみ」と題し、大学受験予備校で長年進路指導に携わった経験を持つ大塚慎也氏にご講演をいただきました。我々保護者にとって入試の現状などを知る良い機会となりました。

### ③ 施設保健委員会

5月28日（水）学校施設見学会及び食堂試食会を実施しました。生徒の充実した学校生活を支援するため、各施設の改善や生徒の健康管理等について情報共有を行いました。



### ④ 広報委員会

年2回のPTA広報誌（松籟SYOURAI）を発行するため、先生方からのメッセージや教職員の写真をまとめたり、文化祭や体育祭の様子を写真撮影したりし、学校の様子を多くの保護者に知ってもらえるように取り組んでいます。



### ⑤ 学年委員会

11月6日（木）1学年ではクラス懇談会を実施し、日頃の学校での様子などを共有します。2学年では修学旅行の保護者向け事前説明会を実施します。

その他、文化祭でのバザー販売などを行い、教育活動の充実に向けて売上金を生徒会に寄付するなどの活動をしています。

## (4) その他

① 関東地区高等学校PTA連合会大会 埼玉大会への参加

② 全国高等学校PTA連合会大会 三重大会への参加

上記大会などを通して、他校の実践事例などを知ることができました。

## 3 おわりに

社会の変化や家庭の状況などもあって、PTA活動に対する会員の意識を維持していくことは難しくなっている学校が多くなっています。

様々な課題があるものの、生徒の学校生活をより充実させていくために、PTA組織はなくてはならない存在です。どのような形で活動していくのがよいのか、他校の先進的な取組などを参考にしながら、本校の特色を生かしながらPTA活動をより良いものにしていきたいと考えています。



## 高 校 教 育 と P T A

埼玉県立熊谷高等学校

P T A 会長 浅見 禄郎

### 1 はじめに

熊谷高校は、1895年（明治28年）、埼玉県第二尋常中学校として創立し、今年で創立130年目を迎える学校である。

現在、全日制課程には、第1年次から第3年次まで各8クラス、合計950名の生徒が在籍しており、ほぼすべての生徒が大学への進学を希望している。卒業生は、日本や世界のリーダーとして、様々な分野で活躍している。また、定時制課程には、第1学年から第4学年まで47名の生徒が在籍している。

平成28年から、進学型単位制を導入し、幅広い科目選択や少人数指導の授業が可能となっている。受験に必要な科目が充実しているだけではなく、すべての教科をバランスよく学習するための教育課程となっている。

部活動については、19の運動部、11の文化部、6の愛好会があり、9割以上の生徒が部活動や愛好会に所属している。毎年、複数の部活動が、関東大会、全国大会に出場するなど、部活動も盛んである。

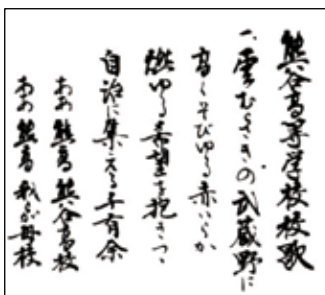
また、平成7年に、ニュージーランドのサウスランドボーイズハイスクール（S BHS）と兄弟校の提携を結び、夏季休業等を活用して、隔年で交互に短期留学を行って、親睦を深めている。



【開校式当日の校舎】



【現在の校舎】



【校歌(山田耕筰作曲)】

本校では、校訓として「質実剛健」「文武両道」「自由と自治」の3つを掲げ、「授業、部活動、学校行事」など、何事にも仲間と切磋琢磨しながら全力で取り組んでいる。そして、学校行事や部活動の壮行会の際など、様々な場面で校歌を歌う機会が非常に多い。歌う際は、仲間と肩を組んで歌う。この校歌は、卒業して何十年経っても、いまだに歌うことができる、という卒業生が多く、時代を超えて、校歌が卒業生同士を結んでいる。

その他、学校行事も盛んで、40キロハイク、臨海学校、4泊5日の修学旅行、ラグビー大会やバレーボール大会を始めとした各種スポーツ大会など、実に多種多様な行事を実施している。それらすべてを、生徒自身が企画、立案、実行している点も特徴的である。

このように、多彩な経験を重ねることで、協調性やリーダーシップを育むとともに、仲間とともに努力する喜びや達成感を得ることで豊かな人間性を育み、将来の日本や世界を支えるたくましい人材の育成を目指している。



【40キロハイク】



【臨海学校】



【修学旅行】



【バレーボール大会】

## 2 PTAの組織について

### (1) 本部役員

令和7年度の熊谷高校PTA本部は、会長1名、副会長11名、監事3名、理事13名、幹事6名で構成されている。「PTA・後援会総会」を5月に開催、「PTA・後援会理事会」を年間5回開催し、PTA活動に係る協議及び情報共有を行っている。理事会の中に「総務委員会」が設置されており、事業計画案及び予算案を作成し、総会または理事会の議決を経て、事業計画を実施している。

その他、「広報委員会」「図書館活用委員会」が設置され、活動している。具体的な活動は、以下「3 PTAの活動について」で示す。

### (2) 支部PTA

熊谷高校PTAには、以下9支部があり、それぞれ多彩な活動を行っている。支部長は、本部の理事を兼ねている。

各支部では、5月のPTA後援会・総会に向けて、4月に支部総会を開催し、各支部の活動計画や予算等について話し合っている。

- |     |        |        |     |     |
|-----|--------|--------|-----|-----|
| ①熊谷 | ②行田・羽生 | ③深谷    | ④本庄 | ⑤寄居 |
| ⑥江南 | ⑦鴻巣・北本 | ⑧上尾・桶川 | ⑨秩父 |     |

### 3 PTAの活動について

#### (1) 学校行事への協力及び参加（40キロハイクでの給水、文化祭等）

熊谷高校の「40キロハイク」は、昭和50年(1975)年、戦前に熊谷～秩父間で行われていた「剛健行軍」を再現し、第1回が実施された。現在は、熊谷荒川堤から上長瀬駅までの40キロを踏破する伝統行事である。5月の秩父路を駆ける熊高の風物詩である。5月とは言え、気温は



高く、距離も長いため、水分の補給は欠かせない。 【40キロハイクでの給水】

そのため、江南・寄居・秩父各支部の協力を得て、

3箇所に給水ポイントを設けて、生徒を支援している。また、スタート地点である熊谷荒川堤付近では、生徒と一般の方々とが交錯するため、熊谷支部が交通整理を実施している。

その他、熊谷支部が中心となり、毎年文化祭「熊高祭」に参加している。今年は、学校行事の写真展示、熊高の焼印が入った菓子の販売、歴代の「熊高PTA新聞」の閲覧などを行い、学校の雰囲気を感じてもらう機会を提供した。



【熊高PTA新聞】

#### (2) 広報委員会

40キロハイクや文化祭、体育祭などの学校行事取材し、編集会議を経て原稿を仕上げ、「熊高PTA新聞」を年3回（7月、12月、3月）発行し、全校生徒に配付している。

#### (3) 図書館活用委員会

主たる活動は、①放課後の延長開館のサポート、②土曜日の一般開放（年間25回）、③PTA会員対象の教養講座の実施（12月）である。昨年の教養講座では、「姿勢と呼吸～ヒト本来の機能を見直す」と題し、背中のコリや浅い呼吸が引き起こす体の不調や睡眠改善について学んだ。毎年、多くの会員が参加し、大盛況である。



【教養講座】

#### (4) 進路講演会

大学入試制度等について、予備校講師に話してもらい、Webサイトで限定配信している。保護者自身の都合に合わせて閲覧することができるため、大変好評である。

#### (5) 生き生き仕事人

キャリア教育の一環として、各界で活躍している卒業生を招き、講演会を実施し、生徒の進路選択の一助としている。各支部PTAから講師を推薦してもらい、1年次を対象として毎年11月に実施している。昨年は、4人の講師を招いて、講演会とパネルディスカッションを実施した。



【生き生き仕事人】

#### 4 各支部PTAの活動について

熊谷高校には、9つの支部PTAがあり、支部単位での活動を盛んに行っている。各支部において、大学見学等の研修を行い、家庭での教育に役立てている。保護者が実際に大学等に赴くことで、大学への理解を深めることには大きな意義がある。

今年度の各支部の活動については、以下のとおり計画している。

- ①熊谷……支部総会、文化祭への参加
- ②行田・羽生……支部総会、卒業生を招いた進路講演会
- ③深谷……支部総会、大学への研修旅行
- ④本庄……支部総会、進路講演会、長瀬10キロハイク
- ⑤寄居……支部総会、大学への研修旅行、40キロハイク給水支援
- ⑥江南……支部総会、40キロハイク給水支援
- ⑦鴻巣・北本……支部総会、進路講演会
- ⑧上尾・桶川……支部総会、本校支部担当教諭による進路講演会
- ⑨秩父……支部総会、40キロハイク給水支援、秩父支部日より「かわら版」の発行（年2回）、本校支部担当教諭による進路講演会、大学への研修旅行

#### 【各支部総会の様子】



#### 5 終わりに

教育は、家庭教育と学校教育が両輪である。その点で、PTA活動は両者を繋ぐ重要な役割を果たしていると言える。熊谷高校のPTA活動は、保護者の方々に熊谷高校を理解してもらうよい機会である。また、PTA活動を通じて、生徒と保護者が体験を共有し、それについて語り合うことは、家庭での教育にも大きな効果がある。実際、PTA活動に参加することで、「子どもとの会話のきっかけになった。」「学校の活動を詳しく知ることができた。」など、多くの声が寄せられている。

熊谷高校は、その歴史と伝統を大事にしながらも、新たな時代において、更なる飛躍を遂げようとしている。その実現には、学校と保護者の連携が欠かせない。これからも、PTA、地域、学校が一体となり、熊谷高校の新たな歴史を紡ぎ、時代に挑戦していきたい。